

受験  
番号

第 113 回簿記検定試験答案用紙

生年月日 昭・平

試験地 (会議所名)	採点欄

1 級 ①

氏名

商業簿記

連結精算表

採点欄

(単位：千円)

勘定科目	個別財務諸表			消去・振替	連結財務諸表
	P 社	S 社	合計		
貸借対照表					
受取手形	35,000	15,000	50,000		48,000
売掛金	75,000	25,000	100,000		92,000
商品	24,500	16,500	41,000		44,350
土地	65,350	28,500	93,850		94,150
短期貸付金	20,000		20,000		10,000
繰延税金資産	3,420	1,840	5,260		6,520
S 社株式	63,500		63,500		0
M 社株式	29,600		29,600		36,510
連結調整勘定					6,488
その他の諸資産	229,540	68,140	297,680		297,680
資産合計	545,910	154,980	700,890		635,698
支払手形	( 26,400)	( 8,500)	( 34,900)		( 30,400)
買掛金	( 36,800)	( 12,300)	( 49,100)		( 45,600)
短期借入金	( 50,000)	( 10,000)	( 60,000)		( 52,500)
繰延税金負債	( 1,500)	( 1,000)	( 2,500)		( 3,580)
その他の諸負債	( 43,270)	( 39,560)	( 82,830)		( 82,830)
貸倒引当金	( 2,600)	( 800)	( 3,400)		( 3,000)
少数株主持分					( 16,450)
資本金	(200,000)	( 50,000)	(250,000)		( 200,000)
利益剰余金	(185,340)	( 32,820)	(218,160)		( 201,338)
負債・資本合計	(545,910)	(154,980)	(700,890)		( 635,698)
損益計算書					
売上高	(642,450)	(183,560)	(826,010)		( 770,810)
売上原価	386,240	126,750	512,990		458,640
貸倒引当金繰入	1,600	600	2,200		1,950
受取利息	( 1,260)	( 460)	( 1,720)		( 1,320)
受取配当金	( 9,250)	( 1,200)	( 10,450)		( 4,650)
固定資産売却益	( 4,500)		( 4,500)		( 2,500)
支払利息	3,820	1,250	5,070		4,670
その他の収益	( 12,400)	( 3,600)	( 16,000)		( 16,000)
その他の費用	236,960	45,570	282,530		282,530
連結調整勘定償却					376
持分法による投資損益					( 4,460)
税金等調整前当期純利益	( 41,240)	( 14,650)	( 55,890)		( 51,574)
法人税等	17,730	6,680	24,410		24,410
法人税等調整額	( 1,240)	( 650)	( 1,890)		( 2,930)
少数株主損益					1,628
当期純利益	( 24,750)	( 8,620)	( 33,370)		( 28,466)
剰余金計算書					
利益剰余金期首残高	(180,590)	( 29,200)	(209,790)		( 192,872)
利益剰余金当期増加高					
当期純利益	( 24,750)	( 8,620)	( 33,370)		( 28,466)
利益剰余金当期減少高					
配当金	20,000	5,000	25,000		20,000
利益剰余金期末残高	(185,340)	( 32,820)	(218,160)		( 201,338)

--	--	--	--

生年月日 昭・平 \_\_\_\_\_

氏名 \_\_\_\_\_

第 113 回簿記検定試験答案用紙

1 級 ②

会 計 学

試験地 (会議所名)	採 点 欄

第 1 問

	I 誤っている 語句の記号	II 正しいと思われる適当な語句
1	(c)	臨時償却
2	(c)	事業税
3	(c)	見込販売数量
4	(b)	正規の簿記の原則
5	(b)	リース料総額の現在価値

採 点 欄

第 2 問

問 1

機械A	機械B	機械C
×	○	○

問 2

(単位：千円)

機械A	機械B	機械C
	12,500	2,850

問 3

(単位：千円)

借 方	貸 方
減 損 損 失	機 械
15,350	15,350

第 3 問

ア	包括主義
イ	当期業績主義
ウ	臨時損益
エ	前期損益修正
オ	経常損益

受験  
番号

第 113 回簿記検定試験答案用紙

生年月日 昭・平 . . .

試験地(会議所名)	採点欄

1 級 ③

氏名 \_\_\_\_\_

工業簿記

問 1

(単位：千円)

完成品総合原価	165,080	月末仕掛品原価	20,035
---------	---------	---------	--------

採点欄

問 2

(単位：千円)

	完成品原価	月末仕掛品原価	標準原価差異
正常仕損費を含まない原価標準で良品の原価を計算する場合	150,000	17,820	17,295 ( U )
正常仕損費を含む原価標準で良品の原価を計算する場合	161,400	17,820	5,895 ( U )



問 3

(単位：千円)

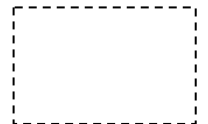
標準原価差異の分析		正常仕損費を含まない原価標準で良品の原価を計算する場合	正常仕損費を含む原価標準で良品の原価を計算する場合
直接材料費差異 (甲材料)	総 差 異	6,595 ( U )	1,567 ( U )
	価 格 差 異	310 ( U )	310 ( U )
	消 費 量 差 異	6,285 ( U )	1,257 ( U )
直接材料費差異 (乙材料)	総 差 異	120 ( F )	120 ( F )
	価 格 差 異	120 ( F )	120 ( F )
	消 費 量 差 異	0 ( - )	0 ( - )
直接労務費差異	総 差 異	1,500 ( U )	744 ( U )
	賃 率 差 異	380 ( U )	380 ( U )
	時 間 差 異	1,120 ( U )	364 ( U )
製造間接費差異	総 差 異	9,320 ( U )	3,704 ( U )
	予 算 差 異	1,000 ( U )	1,000 ( U )
	能 率 差 異	8,320 ( U )	2,704 ( U )
	操 業 度 差 異	0 ( - )	0 ( - )



問 4

(単位：千円)

	仕損関連の差異	仕損無関連の差異
直接材料消費量差異 (甲材料)	5,028 ( U )	1,257 ( U )
直接材料消費量差異 (乙材料)	0 ( - )	0 ( - )
直接労働時間差異	756 ( U )	364 ( U )
製造間接費能率差異	5,616 ( U )	2,704 ( U )
合 計	11,400 ( U )	4,325 ( U )



問 5

(単位：千円)

実際原価計算の場合	11,851	標準原価計算の場合	11,400
-----------	--------	-----------	--------

生年月日 昭・平

受験  
番号

--	--	--	--

氏名

第 113 回簿記検定試験答案用紙

1 級 ④

原 価 計 算

試験地 (会議所名)	採 点 欄

問 1

製品A	製品B
1,500 円	1,200 円

採 点 欄

問 2

480,000 円
-----------

問 3

160 時間
--------

問 4

200 個
-------

問 5

128 個
-------

問 6

16 個
------

問 7

12,000 円
----------

問 8

製品A	製品B	月間貢献利益総額
320 個	200 個	720,000 円

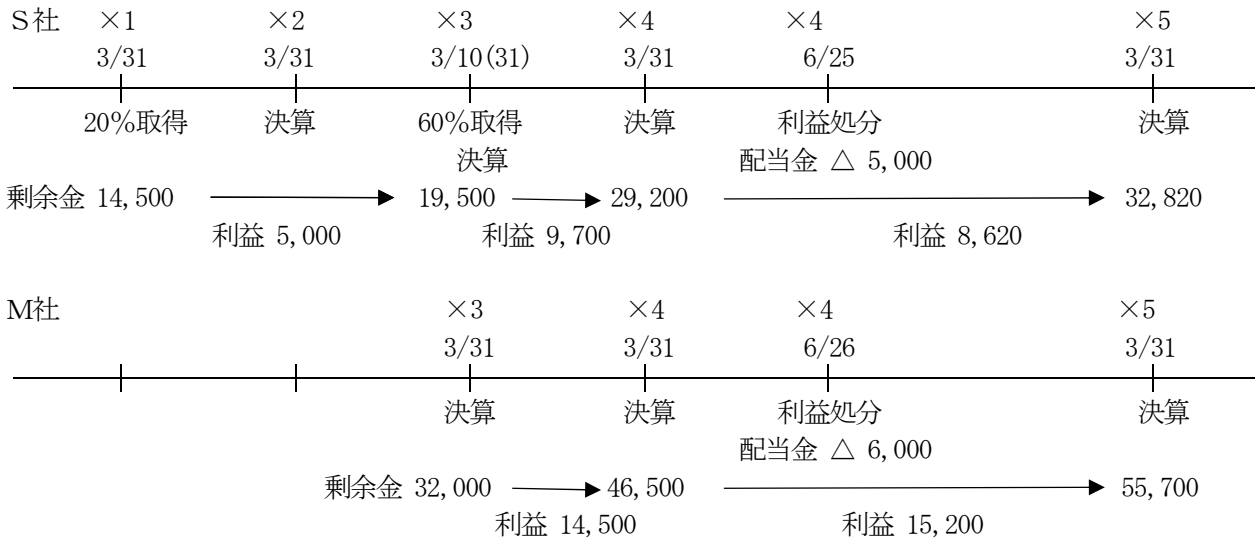
問 9

30,000 円
----------

問 10

140,000 円
-----------

商業簿記解説(単位：千円)



S社(部分時価評価法)

20%取得

土	地	500	繰延税金負債	200
			評価差額	300

繰延税金負債  $\{(19,000 - 16,500) \times 20\} \times 40\% = 200$

評価差額  $(19,000 - 16,500) \times 20\% - 200 = 300$

資	本	金	50,000	S	社	株	式	16,000			
利益	剰余金	期首	残高	14,500	少	数	株	主	持	分	51,600
評	価	差	額	300							
連	結	調	整	勘	定	2,800					

少数株主持分  $(50,000 + 14,500) \times 80\% = 51,600$

連結調整勘定  $16,000 - \{(50,000 + 14,500) \times 20\% + 300\} = 2,800$

当期純利益の振替(×1年度末~×3年度末)

利益	剰余金	期首	残高	4,000	少	数	株	主	持	分	4,000
				$5,000 \times 80\% = 4,000$							

連結調整勘定の償却(×2年度末・×3年度末)

利益	剰余金	期首	残高	280	連	結	調	整	勘	定	280
				$2,800 \div 20年 = 140 \times 2年 = 280$							

60%追加取得

土	地	1,800	繰延税金負債	720
			評価差額	1,080

繰延税金負債  $\{(19,500 - 16,500) \times 60\} \times 40\% = 720$

評価差額  $\{(19,500 - 16,500) \times 60\} - 720 = 1,080$

少	数	株	主	持	分	41,700	S	社	株	式	47,500
評	価	差	額	1,080							
連	結	調	整	勘	定	4,720					

少数株主持分  $(51,600 + 4,000) \times 60\% / 80\% = 41,700$

連結調整勘定  $47,500 - \{(50,000 + 19,500) \times 60\% + 1,080\} = 4,720$

当期純利益の振替(×3年度末~×4年度末)

利益	剰余金	期首	残高	1,940	少	数	株	主	持	分	1,940
				$9,700 \times 20\% = 1,940$							

連結調整勘定の償却(×4年度末)

利益	剰余金	期首	残高	376	連	結	調	整	勘	定	376
				$\times 1年度 2,800 \div 20年 = 140$							

$\times 2$ 年度  $4,720 \div 20年 = 236$

M社(持分法の適用)

当期純利益の振替( $\times 3$ 年末 $\sim \times 4$ 年末)

M 社 株 式	4,350		利益剰余金期首残高	4,350
14,500 $\times 30\% = 4,350$				

投資差額の償却( $\times 4$ 年末)

利益剰余金期首残高	100		M 社 株 式	100
投資差額: $29,600 - \{(60,000 + 32,000) \times 30\% \} = 2,000$				
投資差額の償却: $2,000 \div 20年 = 100$				

期首商品 未実現利益の消去

利益剰余金期首残高	300		商 品	300
少数株主持分	60		利益剰余金期首残高	60
繰延税金資産	120		利益剰余金期首残高	120
利益剰余金期首残高	24		少数株主持分	24
未実現利益 $1,800 \times 20\% / 120\% = 300$			繰延税金資産 $300 \times 40\% = 120$	
少数株主持分 $300 \times 20\% = 60$			少数株主持分 $120 \times 20\% = 24$	

貸倒引当金の設定

貸 倒 引 当 金	150		利益剰余金期首残高	150
利益剰余金期首残高	30		少数株主持分	30
利益剰余金期首残高	60		繰延税金負債	60
少数株主持分	12		利益剰余金期首残高	12
少数株主持分 $150 \times 20\% = 30$				
繰延税金負債 $150 \times 40\% = 60$			少数株主持分 $60 \times 20\% = 12$	



まとめる

開始仕訳

資 本 金	50,000		S 社 株 式	63,500
利益剰余金期首残高	16,918		少数株主持分	15,822
土 地	2,300		商 品	300
貸 倒 引 当 金	150		繰延税金負債	980
繰延税金資産	120			
連結調整勘定	6,864			
M 社 株 式	4,250			

当期純利益の振替 ( $\times 4$ 年度末 $\sim \times 5$ 年度末)

少数株主損益	1,724		少数株主持分	1,724
$8,620 \times 20\% = 1,724$				

連結調整勘定の償却 ( $\times 5$ 年度末)

連結調整勘定償却	376		連結調整勘定	376
$\times 1$ 年度 $2,800 \div 20年 = 140$				
$\times 2$ 年度 $4,720 \div 20年 = 236$				

利益処分

受 取 配 当 金	4,000		配 当 金	5,000
少数株主持分	1,000			
配当金 P社(親会社)	$5,000 \times 80\% = 4,000$			
少数株主持分	$5,000 \times 20\% = 1,000$			

M社(持分法の適用)

当期純利益の振替(×4年末～×5年末)

M社株式	4,560	持分法による投資損益	4,560
------	-------	------------	-------

$15,200 \times 30\% = 4,560$

投資差額の償却(×5年末)

持分法による投資損益	100	M社株式	100
------------	-----	------	-----

投資差額： $29,600 - \{(60,000 + 32,000) \times 30\% \} = 2,000$

投資差額の償却： $2,000 \div 20 \text{年} = 100$

利益処分

受取配当金	1,800	M社株式	1,800
-------	-------	------	-------

3 内部取引高の相殺消去

売上高	55,200	売上原価	55,200
-----	--------	------	--------

未達商品

商品	4,500	買掛金	4,500
----	-------	-----	-------

期首商品 実現仕訳

商品	300	売上原価	300
----	-----	------	-----

少数株主損益	60	少数株主持分	60
--------	----	--------	----

法人税等調整額	120	繰延税金資産	120
---------	-----	--------	-----

少数株主持分	24	少数株主損益	24
--------	----	--------	----

未実現利益  $1,800 \times 20\% / 120\% = 300$       繰延税金資産  $300 \times 40\% = 120$

少数株主持分  $300 \times 20\% = 60$       少数株主持分  $120 \times 20\% = 24$

期末商品 未実現利益の消去

売上原価	1,150	商品	1,150
------	-------	----	-------

少数株主持分	230	少数株主損益	230
--------	-----	--------	-----

繰延税金資産	460	法人税等調整額	460
--------	-----	---------	-----

少数株主損益	92	少数株主持分	92
--------	----	--------	----

未実現利益  $(2,400 + 4,500) \times 20\% / 120\% = 1,150$

少数株主持分  $1,150 \times 20\% = 230$

繰延税金資産  $1,150 \times 40\% = 460$       少数株主持分  $460 \times 20\% = 92$

4 債権・債務の相殺および貸倒引当金の設定

貸倒引当金繰入	150	貸倒引当金	150
---------	-----	-------	-----

少数株主持分	30	少数株主損益	30
--------	----	--------	----

繰延税金負債	60	法人税等調整額	60
--------	----	---------	----

少数株主損益	12	少数株主持分	12
--------	----	--------	----

前期分の戻入 少数株主持分  $150 \times 20\% = 30$

繰延税金負債  $150 \times 40\% = 60$       少数株主持分  $60 \times 20\% = 12$

支払手形	2,000	受取手形	2,000
------	-------	------	-------

買掛金	8,000	売掛金	8,000
-----	-------	-----	-------

貸倒引当金	200	貸倒引当金繰入	200
-------	-----	---------	-----

少数株主損益	40	少数株主持分	40
--------	----	--------	----

法人税等調整額	80	繰延税金負債	80
---------	----	--------	----

少数株主持分	16	少数株主損益	16
--------	----	--------	----

少数株主持分  $200 \times 20\% = 40$

繰延税金負債  $200 \times 40\% = 80$       少数株主持分  $80 \times 20\% = 16$

支 払 手 形	2,500	短 期 借 入 金	2,500
短 期 借 入 金	10,000	短 期 貸 付 金	10,000
貸 倒 引 当 金	200	貸 倒 引 当 金 繰 入	200
法 人 税 等 調 整 額	80	繰 延 税 金 負 債	80
繰延税金負債 $200 \times 40\% = 80$			

5 内部取引の相殺

受 取 利 息	400	支 払 利 息	400
---------	-----	---------	-----

6 未実現利益の消去

固 定 資 産 売 却 益	2,000	土 地	2,000
繰 延 税 金 資 産	800	法 人 税 等 調 整 額	800
繰延税金資産 $2,000 \times 40\% = 800$			



会計学解説

第2問 (単位: 千円)

問1

減損損失を認識するかどうかの判定

割引前将来キャッシュ・フローの合計

機械A  $10,400 + 10,816 + 13,520 + 14,061 + 10,820 + 4,866 = 64,483$

$55,000 < 64,483 \quad \therefore \times$

機械B  $9,360 + 8,112 + 7,874 + 7,311 = 32,657$

$44,000 > 32,657 \quad \therefore \bigcirc$

機械C  $4,368 + 4,110 + 4,218 + 5,849 + 1,638 = 20,183$

$21,000 > 20,183 \quad \therefore \bigcirc$

問2

減損損失の金額

機械B 割引後将来キャッシュ・フロー(使用価値)

$$9,360 \times \frac{1}{1.04} = 9,000$$

$$8,112 \times \frac{1}{(1.04)^2} = 7,500$$

$$7,874 \times \frac{1}{(1.04)^3} = 7,000$$

$$7,311 \times \frac{1}{(1.04)^3} = 6,500$$

---

30,000

使用価値  $30,000 < \text{正味売却価額 } 31,500 \quad \therefore 31,500$

減損損失  $44,000 - 31,500 = 12,500$

機械C 割引後将来キャッシュ・フロー(使用価値)

$$4,368 \times \frac{1}{1.04} = 4,200$$

$$4,110 \times \frac{1}{(1.04)^2} = 3,800$$

$$4,218 \times \frac{1}{(1.04)^3} = 3,750$$

$$5,849 \times \frac{1}{(1.04)^4} = 5,000$$

$$1,638 \times \frac{1}{(1.04)^4} = 1,400$$

---

18,150

使用価値  $18,150 < \text{正味売却価額 } 15,000 \quad \therefore 18,150$

減損損失  $21,000 - 18,150 = 2,850$

問3

機械B  $12,500 + \text{機械C } 2,850 = \text{合計 } 15,350$

減 損 損 失  $15,350 / \text{機 械 } 15,350$

工業簿記解説(単位：円)

問1

原 価 計 算 表

(単位：円)

摘 要	原 料 甲		原 料 乙		労 務 費		製造間接費	合 計
	数 量	金 額	数 量	金 額	換算数量	金 額	金 額	
当 月 投 入	3,500	65,255	3,000	28,800	3,400	11,020	80,040	185,115
月 末 仕 掛 品	500	9,322.14	—	—	400	1,296.47	9,416.47	20,035.08
計：完成品	3,000	55,932.85	3,000	28,800	3,000	9,723.52	70,623.52	165,079.89

問2

正常仕損費を含まない原価標準で良品の原価を計算する場合

完成品原価  $50,000 \text{ 円} \times 3,000 \text{ 単位} = 150,000,000 \text{ 円}$

月末仕掛品原価

直接材料費(甲)  $16,760 \text{ 円} \times 500 \text{ 単位} = 8,380,000 \text{ 円}$

直接労務費  $2,800 \text{ 円} \times 400 \text{ 単位} = 1,120,000 \text{ 円}$

製造間接費  $20,800 \text{ 円} \times 400 \text{ 単位} = 8,320,000 \text{ 円}$

合 計 17,820,000 円

標準投入額

直接材料費(甲)  $16,760 \text{ 円} \times 3,500 \text{ 単位} = 58,660,000 \text{ 円}$

直接材料費(乙)  $9,640 \text{ 円} \times 3,000 \text{ 単位} = 28,920,000 \text{ 円}$

直接労務費  $2,800 \text{ 円} \times 3,400 \text{ 単位} = 9,520,000 \text{ 円}$

製造間接費  $20,800 \text{ 円} \times 3,400 \text{ 単位} = 70,720,000 \text{ 円}$

合 計 167,820,000 円

差異  $167,820,000 \text{ 円} - 185,115,000 \text{ 円} = \Delta 17,295,000 \text{ 円}$

正常仕損費を含む原価標準で良品の原価を計算する場合

標準原価カード

直接材料費(甲) 16,760 円

直接材料費(乙) 9,640 円

直接労務費 2,800 円

製造間接費 20,800 円

正常仕損費

直接材料費(甲)  $16,760 \text{ 円} \times 100\% \times 10\% = 1,676 \text{ 円}$

直接労務費  $2,800 \text{ 円} \times 90\% \times 10\% = 252 \text{ 円}$

製造間接費  $20,800 \text{ 円} \times 90\% \times 10\% = 1,872 \text{ 円}$

合 計 53,800 円

完成品原価  $53,800 \text{ 円} \times 3,000 \text{ 単位} = 161,400,000 \text{ 円}$

月末仕掛品原価

直接材料費(甲)  $16,760 \text{ 円} \times 500 \text{ 単位} = 8,380,000 \text{ 円}$

直接労務費  $2,800 \text{ 円} \times 400 \text{ 単位} = 1,120,000 \text{ 円}$

製造間接費  $20,800 \text{ 円} \times 400 \text{ 単位} = 8,320,000 \text{ 円}$

合 計 17,820,000 円

標準投入額

直接材料費(甲)  $16,760 \text{ 円} \times 3,500 \text{ 単位} = 58,660,000 \text{ 円}$

直接材料費(乙)  $9,640 \text{ 円} \times 3,000 \text{ 単位} = 28,920,000 \text{ 円}$

直接労務費  $2,800 \text{ 円} \times 3,400 \text{ 単位} = 9,520,000 \text{ 円}$

製造間接費  $20,800 \text{ 円} \times 3,400 \text{ 単位} = 70,720,000 \text{ 円}$

正常仕損費  $3,800 \text{ 円} \times 3,000 \text{ 単位} = 11,400,000 \text{ 円}$

合 計 179,220,000 円

差異  $179,220,000 \text{ 円} - 185,115,000 \text{ 円} = \Delta 5,895,000 \text{ 円}$

問3 正常仕損費を含まない原価標準で良品の原価を計算する場合

材料甲

単価  
実際 2,105

標準	2,095	価格差異 △ 310,000	
			消費量差異 △ 6,285,000
		標準数量 8個×3,500単位 =28,000個	実際数量 31,000個

材料乙

単価  
実際 2,400

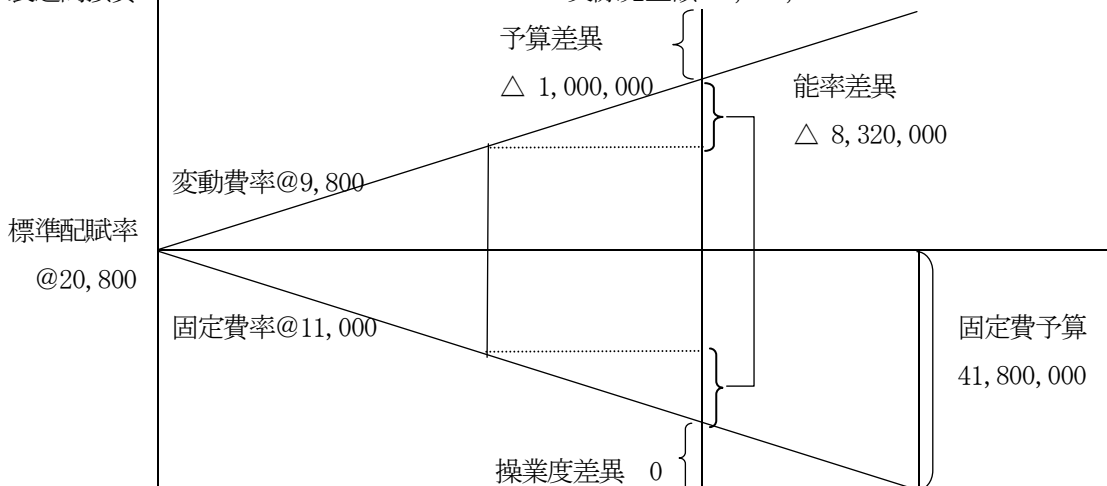
標準	2,410	価格差異 + 120,000	
			消費量差異 0
		標準数量 4個×3,000単位 =12,000個	実際数量 12,000個

労務費

賃率  
実際 2,900

標準	2,800	賃率差異 △ 380,000	
			時間差異 △ 1,120,000
		標準作業時間 1h×3,400単位 =3,400h	実際作業時間 3,800h

製造間接費



標準作業度 1h × 3,400 単位 = 3,400h      実際作業度 3,800h      基準作業度 3,800h

正常仕損費を含む原価標準で良品の原価を計算する場合

材料甲

単価  
実際 2,105

標準	2,095	価格差異 △ 310,000	
			消費量差異 △ 1,257,000
		標準数量 8個 × 3,500 単位 = 28,000 個	実際数量 31,000 個
		8個 × 10% × 3,000 単位 = 2,400 個	

材料乙

単価  
実際 2,400

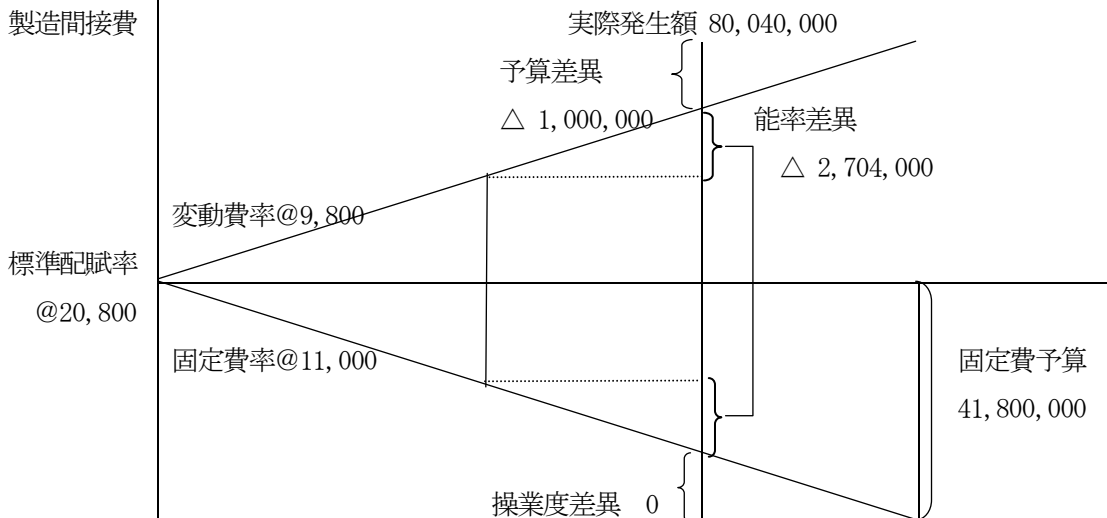
標準	2,410	価格差異 + 120,000	
			消費量差異 0
		標準数量 4個 × 3,000 単位 = 12,000 個	実際数量 12,000 個

労務費

賃率  
実際 2,900

標準	2,800	賃率差異 △ 380,000	
			時間差異 △ 364,000
		標準作業時間 1h × 3,400 単位 = 3,400h	実際作業時間 3,800h
		1h × 90% × 10% × 3,000 単位 = 270h	

製造間接費



	標準操業度	実際操業度	基準操業度
1 h × 3,400 単位	= 3,400 h	3,800 h	3,800 h
1 h × 90% × 10% × 3,000 単位 =	270 h		

問4

仕損関連の差異

直接材料消費量差異(甲材料)	$\Delta 2,400 \text{ 個} \times @2,095 \text{ 円} =$	$\Delta 5,028,000 \text{ 円}$
直接材料消費量差異(乙材料)		0 円
労務労働時間差異	$\Delta 270 \text{ h} \times @ 2,800 \text{ 円} =$	$\Delta 756,000 \text{ 円}$
製造間接費能率差異	$\Delta 270 \text{ h} \times @20,800 \text{ 円} =$	$\Delta 5,616,000 \text{ 円}$
		<u><math>\Delta 11,400,000 \text{ 円}</math></u>

仕損無関連の差異

直接材料消費量差異(甲材料)	$(30,400 \text{ 個} - 31,000 \text{ 個}) \times @2,095 \text{ 円} =$	$\Delta 1,257,000 \text{ 円}$
直接材料消費量差異(乙材料)		0 円
労務労働時間差異	$(3,670 \text{ h} - 3,800 \text{ h}) \times @ 2,800 \text{ 円} =$	$\Delta 364,000 \text{ 円}$
製造間接費能率差異	$(3,670 \text{ h} - 3,800 \text{ h}) \times @20,800 \text{ 円} =$	$\Delta 2,704,000 \text{ 円}$
		<u><math>\Delta 4,325,000 \text{ 円}</math></u>

問5

実際原価計算

原 価 計 算 表

(単位：円)

摘 要	原 料 甲		原 料 乙		労 務 費		製造間接費 金 額	合 計
	数 量	金 額	数 量	金 額	換算数量	金 額		
当 月 投 入	3,800	65,255	—	—	3,670	11,020	80,040	156,315
月 末 仕 掛 品	500	8,586.18	—	—	400	1,201.08	8,723.70	18,510.96
差 引	3,300	56,668.81	—	—	3,270	9,818.91	71,316.29	137,804.04
正 常 仕 損	300	5,151.71	—	—	270	810.73	5,888.50	11,850.94
引：完成品	3,000	51,517.10	—	—	3,000	9,008.17	65,427.79	125,953.06

標準原価計算

直接材料費 (甲)	16,760 円 × 300 単位 =	5,028,000 円
直接労務費	2,800 円 × 270 単位 =	756,000 円
製造間接費	20,800 円 × 270 単位 =	<u>5,616,000 円</u>
合 計		<u>11,400,000 円</u>

原価計算解説(単位：円)

問1

	製品A		製品B
売上高	5,000		4,000
変動費			
直接材料費	2,000		1,000
加工費	$1,000 \times (1h + 0.5h)$	$1,000 \times (1h + 0.8)$	$1,800$
貢献利益	1,500		1,200

問2

製品Aの生産可能量  $320h \div 1h = 320$  個

月間貢献利益 @1,500 × 320 個 = 480,000

問3

共通設備の予定遊休時間  $320h - (0.5h \times 320 \text{ 個}) = 160h$

問4

専用設備Bの月間生産能力は  $320h \div 1h = 320$  個生産できる。

共通設備の予定遊休時間では  $160h \div 0.8h = 200$  個生産できる。

∴ 200 個

問5

製品Bの生産可能量  $320h \div 1h = 320$  個

共通設備の予定遊休時間  $320h - (0.8h \times 320 \text{ 個}) = 64h$

$64h \div 0.5h = 128$  個

問6

共通設備の予定遊休時間が  $0.8h \times 10 \text{ 個} = 8h$  増えるので、 $8h \div 0.5h = 16$  個増加する。

問7

製品A (@1,500 × 16 個) - 製品B (@1,200 × 10 個) = +12,000

問8

1 個あたりの貢献利益の高い製品Aを優先して生産する。

製品A  $320h \div 1h = 320$  個を生産すると、共通設備の予定遊休時間  $320h - (0.5h \times 320 \text{ 個}) = 160h$

製品B  $160h \div 0.8h = 200$  個 生産できる。

月間貢献利益 (@1,500 × 320 個) + (@1,200 × 200 個) = 720,000

問9

1 個あたりの貢献利益の高い製品Aを優先して生産する。

製品A  $320h \div 1h = 320$  個を生産すると、

共通設備の予定遊休時間  $(320h + 20h) - (0.5h \times 320 \text{ 個}) = 180h$

製品B  $180h \div 0.8h = 225$  個 生産できる。

貢献利益の増加額  $(225 \text{ 個} - 200 \text{ 個}) \times @1,200 = 30,000$

問 10

	<u>製品A</u>		<u>製品B</u>
売 上 高	5,000		4,000
変 動 費			
直 接 材 料 費	2,000		1,000
加 工 費	$1,000 \times (0.8 \text{ h} + 0.5 \text{ h})$	$1,000 \times (1 \text{ h} + 0.8)$	1,800
貢 献 利 益	<u>1,700</u>		<u>1,200</u>

1 個あたりの貢献利益の高い製品Aを優先して生産する。

製品A  $320 \text{ h} \div 0.8 \text{ h} = 400$  個を生産すると、

共通設備の予定遊休時間  $320 \text{ h} - (0.5 \text{ h} \times 400 \text{ 個}) = 120 \text{ h}$

製品B  $120 \text{ h} \div 0.8 \text{ h} = 150$  個 生産できる。

月間貢献利益  $(@1,700 \times 400 \text{ 個}) + (@1,200 \times 150 \text{ 個}) = 860,000$

貢献利益の増加額  $860,000 - 720,000 \text{ 個} = 140,000$